

弱さを認めることが信仰の始めであり、終わりです

おはようございます。まず、ペトロ様とパウロ様の洗礼名を持っている方は手を上げて下さい。立ち上がっていただけますか？ この四人の方のために温かい拍手をお願いします。ありがとうございます。

この四人の方が持っていらっしゃる使徒ペトロとパウロがどのように偉大な方だったか皆様に説明させていただきます。質問します。「自分は弱い者だ」と思われる方は手を上げて下さい。日本人だけが手を上げましたね。どういうことでしょうか、これは(笑)？ 皆様御存知のようにペトロの仕事はガリラヤという湖で魚を取ることでした。平凡な普通の人でした。パウロはどういう方でしたか？ 結構良い環境で育ち、良い環境の中で勉強し、自分の民族のために良いことをしようと野望を持っていた人でした。その一環としてイエス・キリストという人物に付いていく人々、信じている人々を迫害していました。迫害者でしたね。

この二人の共通点は何でしょうか？ 一言で言えば“弱さ”でした。聖書の中で述べているようにペトロは人間的にもそれほど信頼感のない人で、自分のプライドを守るために自分がまちがっているとはっきりわかっているにもかかわらず「自分は正しい」と言い張る気の強い人でした。「私は絶対イエス様を裏切らない」と堅く誓ったのに三回も破りましたね。そしてその後ものすごく泣いて後悔したけれど、最後にゴルゴタの丘までは行けなかった。怖かったのです。イエス様が死んだ後も逃げて隠れていた。これが使徒ペトロの人間的な姿です。使徒パウロはどうでしたか？ 何でもできる自分にプライドを持っているいろいろなことをしていた。自信満々でした。聖書によく表れているようにその人柄はいつも自分を誇ろうとする傾向がありました。新約聖書全般を見ても「私は神様の僕です。あなたが高くなって私が低くなるのが私の望みです」と言いながらもいつも自信満々で自分を誇った。そういう人柄を持った人でした。ある日ダマスカスへ迫害するために行く途中、馬から落ちて目が見えなくなったんです。そして自分が迫害しようとした人々に助けられました。その時、イエス様に出会いました。

今日の第一朗読ではペトロが迫害されているところが読まれました。第二朗読ではパウロが迫害されて自分の命がもう長くないことを語っています。福音は弱虫だったペトロにイエス様が「私はあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは天上でも解かれる」と約束される個所でした。二人ともある時転換点を迎えます。何の転換ですか？ 自分の弱さを全部捨てて、ただ一つの道を歩むことのできる力をもらう転換です。転換点を迎えたのは誰ですか？ 神様、イエス様です。私達がこの二人を通して考えなければならないことのひとつは私達は希望を持たなければならないということです。又、皆様の中で「私は弱い」と思われる方は手を上げて下さいと言った時、ほとんどの人が手を上げました。それは神様に選ばれる特別な愛を持っていること、神様に選ばれる可能性が示されているということです。

皆さん、ちょっと私にも聞いて下さい。「あなたは弱いですか？」「はい、私は弱さの本物です」私は弱く見えますか？ 見えないでしょうか？ でも自分のことを告白しますと結局人間的に靈的に成熟するためには、靈的に祝福されるためには神様は必ず御手を使います。「お前は偉そうな顔をしているけど本当は弱虫だよ」ということを思い知らされることが必ず生じます。弱虫であることを認めさせるのはイエス様の役割です。人間は自分が弱虫であることがわからないのです。しかし、私達が祈れば、あの方に頼れば、あの方は「あなたは私の力なしには何もできないよ。私があなただけを赤ん坊のように抱きしめなければ」ということを悟らせて下さる。これが一番必要な信仰ではないでしょうか。

老いることも弱さです。病気にかかることも弱さです。卑怯な心も弱さです。淋しがるのも障害を

持っているのも弱さです。こういうあらゆる弱さによって私達は強められます。信仰によって！これを意識して下さい。

イエス様は誰よりペトロの人柄をよくわかっていました。この人がどれほど弱虫であるかわかっていました。それなのにイエス様はペトロに天国の鍵を預けた。その理由は何でしょう？それはペトロには私達すべての人々の姿が表れているからです。

まず自分の弱さを認めることが信仰の始めであり終わりです。この体験を通らなければ「私は信仰の生活をしています」と言いながら、まことの味を味わうことはできないのです。“弱さ”は恵みです。弱さを認めること、これが一番すばらしい勇気だと思います。この祭壇に立っている私はいつも震えています。「今日皆様に何を話せば良いか。ある人が誤解していることを何と説明すれば納得してもらえるか」と。震えることなしに、怖がることなしに勇気ある行いはできません。自分に与えられている弱いところを愛して下さい。なぜならそれによって皆様の救いが始まるからです。結局みんな老けます。弱るんです。これが人間です。他人に「私は良い人間だよ」「私は何でもできる」と言う必要はないんです。もし私が何かできたら「あの方が助けて下さるからできました」というへりくだる心が何より必要ではないでしょうか。私達は神様の前では死ぬまで未熟なものです。自分が未熟であることを認めることができたなら、自分より少し足りないところを持っている人に対してもっと寛大な心になれるのではないのでしょうか。

使徒ペトロとパウロの洗礼名を持つ方、その他の方もそれぞれ聖人の名を持っていらっしゃいます。それは格好良く見せるためにつけられたものではありません。「その聖人の模範に見なう生き方をして下さい」という教会の切実な願いなのです。私達が持っている洗礼名についてもう一度考えてみて下さい。自分の洗礼名にふさわしい生き方をしているか。その模範に倣おうとしているか。その名にふさわしいものか振り返ってみましょう。

皆様、何か迷いがあるかもしれませんが、神様、イエス様はそれぞれの皆様に今も呼びかけていることをよくわかっていただきたいのです。

ありがとうございました。